

学校経営のポイント

“自主学習習慣”定着の取組み

若井 彌一

新年を迎えました。昨年1年間のおつきあいに感謝し、本年の皆さまのご多幸とご活躍をお祈り申しあげます。

大阪市教委の“放課後自主学習”施策

昨年の『日本教育新聞』（12月15・22日合併号）に、「大阪市教委 全小学校で放課後に自主学習」の見出しで、「大阪市教育改革プログラム 重点行動プラン2008-2011」策定の紹介記事が掲載された。

このプランでは、大阪で「まなぶ」「そだつ」「はぐくむ」という3つの観点から、平成20年度から23年度までに集中的に取り組む20項目、82教育施策が示されているという。21年度から大阪市内全小学校に指導員を配置して、年間180時間の「自主学習機会」を設け、「学習意欲の向上と自主的に学習する習慣の定着を目指す」というものである。

かなり思い切った施策の実施である。日本を代表する大都市のひとつ大阪市での、全市の小学校を挙げての取組みである。その成果は今後に期待するとし、その意気込みに注目したいものである。

筆者がこの取組みに注目するのは、「自主的に学習する習慣の定着を目指す」という「解説」である。この取組みを通して、小学生が自主的に学習する習慣を定着させていくことができれば、児童の将来にとってはとてつもない大きな収穫である。自主的に学習する習慣は、押しつけ、強制的な方法によっては定着しない。勉強のおもしろさを、正規の授業時間とは別に、子どもたちが味わったり、見つけたり、気づいたりできるような方法上の工夫が必要と思われる。ぜひとも、創意工夫のある取組みを心がけて、子どもたちの自主的な学習の取組み習慣が定着するような成果を生み出してほしいものである。「学力

向上」という名のもとに、工夫のない取組みにならないように、気配りをさせていただくことを願う。

なぜ、「学び」の充実感を味わえないか

年の始めに、このような内容の通信をお届けするのには、わけがある。

筆者は、これまで、何度もわが国の児童・生徒が学校の学習について肯定的な感じをもち得ないという調査が出ていることを、重要な取組み課題として訴えてきた。何事もそうであるが、自分で精神的な充実感や肯定感を味わうことができなければ、継続していくことはむずかしい。学習内容（その内容が何であれ）が難度の高いものになっていけば、なおのことである。

反対に、おもしろいとか充実感を実感できるようであれば、時間的に見て、たとえ伸びがゆっくりしたペースであるとしても、その学習は継続されていく。Slow and steady win the race. という名言どおり、たとえゆっくりしたペースであっても、その学習は結実していくであろう。

結果はいつでもよいというわけにはいかないが、決められた時間内に何問の問題が解けるかというようなことを目指してやる学習には、限界があることも自明であろう。学びの範囲は、無限と表現してよいほどにスケールが大きい。そのスケールの大きさに気づくこと自体が、学びの意欲を強化することにつながる。ノーベル賞に手が届く数少ない人々も、このようなプロセスや体験を経ての快挙であり、幸運である。

大阪市だけでなく、全国の学校で子どもたちの自主的な学習の推進に本腰を入れた取組みをすすめたい。（わかい・やいち = 上越教育大学大学院教授・附属図書館長）

●最新刊好評発売中！ 高木展郎【編】 B5判 240頁・定価 2,520円 教育開発研究所

『各教科等における言語活動の充実』

■好評発売中！ '08・4月から実施の「指導改善研修」、免許更新制導入等への対応は万全か！

『教員の養成・免許・採用・研修』若井彌一編著 A5判 370頁 定価 3,570円